

設立から第5期めの2011年は、2009年8月に開設したそらち炭鉱の記憶マネジメントセンター（以下：マネジメントセンター）が、地域内外からの注目度・信頼度の一層の向上や職員の知識技能の高度化によって、フル活動ができるようになりました。そのため、NPOにとって今後の展開の端緒となる実験的・先駆的な取組を、多方面にわたって展開することができました。

以下、各事業ごとに、2010年の活動についてご報告します。

[活動計画に対して：○=達成 △=途上 ×=未了]

### ■出版事業

○ブックレットの刊行：かねてから懸案になっていた出版物は、『日本最古のアメリカ製鉄道橋-クロフォードが輸入した幌内鉄道の鉄橋-』（ブックレット02）『北海道における産業観光の活性化に向けて』（ブックレットSP1）の2冊を刊行しました。いずれも主催行事と連動したもので、今後の出版形態のあり方に示唆を与えました。

### ■炭鉱遺産事業

○「その先マップ」（まち歩きガイド）の刊行と関連催事の開催：2011年8月に空知総合振興局と協調して三笠市幾春別・奔別地区でフットパス事業を展開し、これに合わせて「その先マップ C02 幾春別・奔別」を刊行しました。また、後述する「夕張清水沢アートプロジェクト」の成果の一つとして「その先マップ D01 清水沢」の刊行準備を進めており2011年度内に完成する見込みです。

× iPodガイドシステムの運用：かねてからの懸案となっており、3本の素材（幌内×2本、北炭送電線×1本）は完成しているものの、運用体制の整備まで手がまわらず実現に至りませんでした。

○炭鉱遺産の保全・活用に向けた新基軸の可能性模索：2011年夏に住友奔別鉱事務所・選炭施設回りの解体がはじまり、石炭積出ホッパーの上屋の解体が大きな問題としてクローズアップされました。ホッパー上屋の解体は、ひいては奔別立坑の解体、他の炭鉱遺産減失の連鎖の引き金となり得る懸念があったことから、所有者と保存に向けた方策の検討を重ね、11月末に施設をNPOで賃借して保存することで基本合意が成立しました。2012年の保全・活用の具体化に向けて、所有者との間で覚書を締結し、現在、正式契約への準備を進めています（2012年1月14日現在）。炭鉱遺産施設の所有にまで踏み込んだ初の取り組みとなり、今後の活動展開の試金石となります。

後述する「炭鉄港2011」のメイン行事として実施した「夕張清水沢アートプロジェクト」からは、住友奔別鉱での展開の前哨戦として貴重な経験を得ることができました。このアートプロジェクトは、炭鉱とは別な観点から光を当てて、それが結局炭鉱の記憶の価値を発見・増価する契機となることを意図した取り組みです。2012年度に解体が予定されていた旧北炭清水沢発電所を中心に、札幌市立大学の教員・学生による期間限定（9/17～10/16）のアート架設展示（2004年・住友赤平鉱坑口浴場、2009年・北炭幌内鉱布引立坑に次いで3回目）を中心に、様々な関連催事を展開しました。13日間の公開日に約1,000人が来訪するとともに、開催地区内外の人のつながりの緊密化や、施設オーナーが今回の催事を契機に発電所建屋の解体取りやめを決断するなどの成果がありました。ここで得た知見を、2012年に予定している住友奔別鉱での取り組みに生かすことが期待されます。

また、住友赤平立坑については、赤平駅裏のズリ山～立坑間の活用検討会議に理事・職員が各々の立場で参画し機会をうかがっている状況にあります。今後は、奔別立坑と連動した取り組みが必要となってきます。

北炭幌内変電所については、その後新たな進展を見ておらず、今後の課題です。また、夕張市の石炭博物館は、協議会に参画し運営を支援した結果、老朽部分の改修工事が具体化しました。

## ■学術支援事業

○**地域振興に資する学術研究の支援・連携**：マネジメントセンターを窓口には、研究者、地域研究機関、学校などから依頼があり、炭鉱の記憶をテーマとした学術・学習活動をサポートしました。海外からの来訪者が見られるようになったことと、地元の小中学校との関係構築の進展が特筆されます。

また、2011年6月には、銭函中学校の修学旅行（生徒92名）を受け入れました。これは、東日本大震災による影響で具体化したもので、準備期間がない中で初めての試みであったことから運営上は課題がありました。これを奇貨として、2012年度に向けて教育旅行への取り組みを検討しているところです。

昨年と同様に、マネジメントセンターには各所から書籍・資料・物品が寄贈・寄託され、またNPO独自でも映像や図面資料など積極的に炭鉱資料の収集を図ってきました。これら貴重な資料を適切に管理するため、iPadによるデータベースシステムを構築しました。

△**炭鉱遺産の文化財指定のサポート**：住友炭別炭ホッパー保存の動きの際には、専門家による炭鉱遺産の評価・検証を行いました。文化財指定までの動きには至りませんでした。次年度の取り組みの中で、具体的な案件をもとに取り組みを進める必要があります。

## ■市民団体連携事業

○**管内市民団体との関係強化**：2年めとなった「初任者のため炭鉱講座」を開催したほか、美唄市のNPOアルテピアッツァびばいとは、共催による写真展の開催（8月）や企画サポートなど、より密接な関係構築が図られています。また、昨年と同様に「炭鉄港2011-北の近代三都物語」の展開を通じて、炭鉱遺産市民活動団体だけではなく、アートやまちづくりなど他分野の団体との関係が次第に強化されつつあります。

○**国内外の炭鉱遺産関係者・団体へのアピールと受入対応**：地域内外からの多様な求めに対して、積極的に対応しました。特に、6月には会員向けツアーとして長崎市にある軍艦島（端島）を訪問し九州の関係者との交流ができ、12月には吉岡理事長が生野（朝来市）で開催された「鉱石の道シンポジウム」に基調講演者・パネリストとして招かれ国内各地のメンバーとの関係構築が図られました。

## ■拠点施設事業

○**補助事業の継続受託によるマネジメントセンターの運営**：国の補助事業に基づく空知振興局事業を本年も継続して受託しました（2011年度＝受託額17,745千円、今年度から「ふるさと雇用再生特別基金事業」から「緊急雇用推進創出事業」へ指定替）。2009年度から継続雇用している事務局員4名に対しては、試験を実施し2011年度の雇用を決定しました。その結果、3月末で1名が退職し、7月に新たに1名を雇用、陣容を強化した体制でマネジメントセンターでの活動を展開しました。

ワンストップ拠点としてのマネジメントセンターの対外的な評価は、（特に岩見沢市内の各団体・機関との間で）昨年以上に向上しました。このことは、来訪者数の増加として現れており、2011年の年間入場者数は4,205人（月平均350人、昨年=3,396人）、毎日更新のスタッフブログは年間71千ビュー（昨年=43千ビュー）となり、なおも増加の傾向にあります。

△**収益力の具備に向けた職員の技能向上と試行的な実践**：空知振興局の補助事業は2011年度で終了するため、その後のマネジメントセンターの維持に向けて、収益力を高めることが懸案事項となりました。そのため、「さっぽろタパス」（9月）など様々な試行的取り組みを行いました。ツアー・物販・スペースレンタル・調査受託などで職員4名の活動に起因した収益＝約1,400千円（昨年＝約1,500千円）・売上総利益＝1,000千円程度でしかないことが課題です。

△**マネジメントセンターの2012年度以降の継続開設の模索**：2012年4月以降の施設賃借については、施設オーナーのご理解によって約3年間の継続が確定しており、光熱用水費など関連経費も含めてNPOの基礎的な収支の中でカバーするメドがたっています。しかし、職員の配置による継続的な営業については、助成金の獲得など多方面に手を尽くしていますが、未だ見通しはたっていません。

ん。事務所スペースのシェア、開業日・時間の見直し、直接事業の中での人件費負担など、様々な方策の組み合わせによって、できるだけシャッターを降ろさずにいる時間を確保するよう、年度末に向けて方策を探る努力を続けます。

## ■道央圏連携事業

- 小樽・室蘭・空知の3拠点を結ぶ催事の継続開催と札幌圏との連動**：北海道の近代化を支えた炭鉱を軸に、機能的な関係性のあった鉄道・港湾・鉄にもスポットを当て、その歴史性を発掘しアピールする連続催事キャンペーン「炭鉄港2011-北の近代三都物語」を、昨年に引き続き7月23日～11月5日の約三ヶ月にわたって、当NPOが事務局となり開催しました。昨年度の知見を活かして、情報Boxを設置するなど広報拡充につとめた結果、催事件数・延べ参加者（約20,000人）と規模・質ともに拡大しました。

11月5日に開催されたフィナーレでは、空知・室蘭・小樽の3地域のメンバーが各地を訪れ、最後に札幌市に関係者約100名が集まりフォーラムを盛大に開催し、三都間の認識を深化させることができました。

取り組みを通じて、やや専門的（ニッチ=隙間）的なテーマが多く札幌圏の一般人に対する訴求力が弱かったことが反省点でした。また、互いの利害得失や歴史的経緯を考えると、まずは教育旅行など具体的な素材をもとに小樽と結ぶことが効果的であるという知見（仮説）を得ることができました。

## ■会務

- 会員へのスペシャルサービスの充実**：ニューズペーパー2回、メールマガジン8回、ホームページ（随時更新）、マネジメントセンター職員が毎日交替で執筆するブログによって、法人としての活動情報の発信に務めました。特にブログは、次第にアクセス数が増加し全道ブログランキングで常時1～3位を占めるなど、NPOの動きをリアルタイムに伝えるツールとして有効に機能しました。昨年の課題であった会員に向けたスペシャル企画として、6月には長崎市にある軍艦島（端島）を訪問しました。会員相互の交流が図られただけでなく、当NPOの活動の活発さを九州の皆さんにアピールすることができました。
- 理事会活動の活性化**：理事会を5回、運営委員会を3回開催しました。定款上の会議だけではなく、理事の積極的な活動への参画が見られるのは、昨年の理事改選によって北空知地区・岩見沢地区の陣容を強化した効果によるものです。

第2号議案 2011年度収支決算報告、監査報告

2011年 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録

2011年12月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
(現金・預金)		
現 金	0	
普通預金 北洋銀行	1,084,731	
普通預金 空知信用金庫	108	
普通預金 北海道労働金庫	2,011	
郵便振替口座	105,780	
現金・預金小計	1,192,630	
(その他流動資産)		
前払費用	72,576	
その他流動資産小計	72,576	
流動資産合計		1,265,206
2 固定資産		
(有形固定資産)		
什器備品	223,125	
減価償却累計額	▲ 27,890	
有形固定資産小計	195,235	
(投資その他の資産)		
敷 金	50,000	
投資その他の資産小計	50,000	
固定資産合計		245,235
資産合計		<u>1,510,441</u>
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金 [社会保険料]	99,624	
流動負債合計		99,624
2 固定負債		
固定負債合計	0	0
負債合計		<u>99,624</u>
正味財産		<u>1,410,817</u>

2011年 その他事業会計 財産目録

2011年12月31日現在

該当事項なし

2011年 特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表

2011年12月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
(現金・預金)		
現 金	0	
普通預金 北洋銀行	1,084,731	
普通預金 空知信用金庫	108	
普通預金 北海道労働金庫	2,011	
郵便振替口座	105,780	
現金・預金小計	1,192,630	
(その他流動資産)		
前払費用	72,576	
その他流動資産小計	72,576	
流動資産合計	1,265,206	
2 固定資産		
(有形固定資産)		
什器備品	223,125	
減価償却累計額	▲ 27,890	
有形固定資産小計	195,235	
(投資その他の資産)		
敷 金	50,000	
投資その他の資産小計	50,000	
固定資産合計	245,235	
資産合計		1,510,441
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金 [社会保険料]	99,624	
流動負債合計	99,624	
2 固定負債	0	
固定負債合計	0	
負債合計		99,624
III 正味財産の部		
1 前期繰越正味財産	2,173,050	
2 当期正味財産増加額	▲ 762,223	
正味財産合計		1,410,827
負債および正味財産		1,510,451

2011年 その他事業会計 貸借対照表

2011年12月31日現在

該当事項なし

2011年 特定非営利活動に係る事業会計 収支計算書

2011年1月1日～2011年12月31日

特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団

単位：円

科 目	金 額	
I 経常収支の部		
1 経常収支の部		
【経常収入】		
会費収入	684,000	
事業収入	5,320,079	
寄付金収入	65,280	
補助金収入	18,889,987	
助成金収入	950,000	
受取利息収入	584	
経常収入合計		25,909,930
【事業費支出】		
出版事業	46,370	
炭鉱遺産保全活用事業	81,305	
学術支援事業	365,057	
市民団体連携事業	569,715	
拠点施設運営事業	15,363,781	
道央圏域連携事業	6,729,996	
部門共通経費	26,172	
事業費支出合計		23,182,396
【管理費支出】		
給料手当	3,000,000	
通信費	9,300	
旅費交通費	370,060	
会議費	5,862	
印刷費	7,035	
租税公課	64,400	
支払手数料	3,620	
減価償却費	27,890	
雑費	1,600	
管理費支出合計		3,489,767
経常収支差額		▲ 762,233
2 その他資金収支の部		
【その他資金収入】		
その他資金収入合計		0
【その他資金支出】		
什器備品購入額	223,125	
その他資金支出合計		223,125
その他資金収支合計		▲ 223,125
当期収支差額		▲ 985,358
前期繰越収支差額		2,123,050
次期繰越収支差額		1,137,692
II 正味財産増減の部		
1 正味財産増加の部		
什器備品購入額	223,125	
正味財産増加合計		223,125
2 正味財産減少の部		
当期収支差額	985,358	
正味財産減少合計		985,358
当期正味財産増加額		▲ 762,233
前期繰越正味財産額		2,173,050
当期正味財産合計		1,410,817

2011年その他事業会計 収支計算書

2011年1月1日～2011年12月31日

該当事項なし

# 監査報告書

2012年01月14日

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団

理事長 吉岡 宏高 様

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団

監事 熊谷 隆文



監事 加藤 倫朗



2011年01月01日から2011年12月31日までの2011年（第5期）における、会計および業務の監査の結果について、下記の通り報告いたします。

## 監査意見

1. 財産目録、貸借対照表および収支計算書は、会計帳簿の記載と一致し、特定非営利活動法人の収支状況および財務状況を、正しく示しているものと認めます。
2. 事業報告書の内容は、真実であると認めます。
3. 理事の職務執行に関する不正の行為または法令・定款に違反する重大な事実は、ないと認めます。

以 上